

【検体を取り扱う皆さまへ】

検査結果に影響を及ぼすトラブルの防止策について

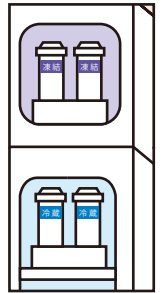
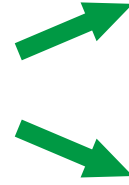
発生頻度が多い4つのトラブルに関する防止策をご紹介します

【発生頻度1番目のトラブル】

検体の保存温度の違い



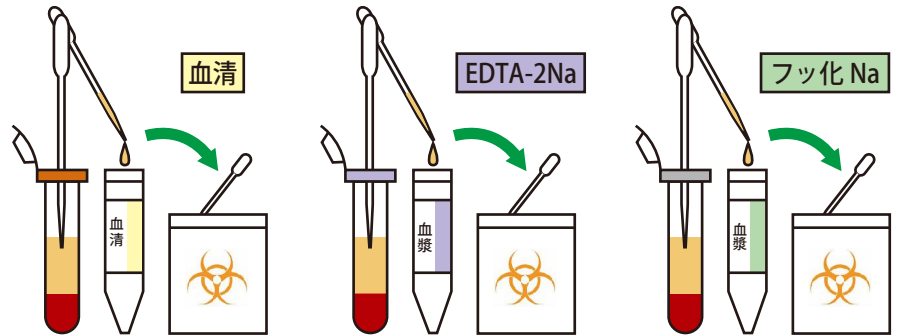
【防止策】

容器ラベルに記載の
温度を確認して、
保存しましょう！

【発生頻度2番目のトラブル】

採血管から提出容器への
移しかえが不適切

【防止策】

採血管ラベルと容器ラベルの材料を確認して移しかえ、
材料毎にピペットをかえましょう！

【発生頻度3番目のトラブル】

検体が溶血している



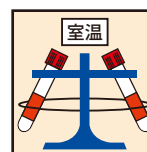
【防止策】

特段の指示や理由がない限り、
以下のような注意を守って溶血を防止しましょう！消毒液が乾く
前に採血しない21G
もしくは
22G
細い採血針は
使用しないシリンジの押し子
を強く押さない採血後、
強くふらない血球まで
吸わない

【発生頻度4番目のトラブル】

分離剤の反転が不良の状態
そのまま凍結分離剤入り採血管を遠心後、
その採血管を凍結して提出する
【特殊処理】の場合

【防止策】

凍結保存する前に、
分離剤が血清と血餅の間にあるか確認しましょう！
(冷温での遠心は分離剤の反転不良の原因になります。)*具体的な検体処理手順については、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の標準採血法ガイドラインや弊社が臨床試験毎に用意（専用資材に内包）しております
採取手順書等を参照願います。

*本資料に関するご質問等は、エスアールエル・メディサーチ 品質保証部 担当宛 電話番号03-5324-2606までご連絡願います。